

2年生総合的な学習“土岐川ゼミ”

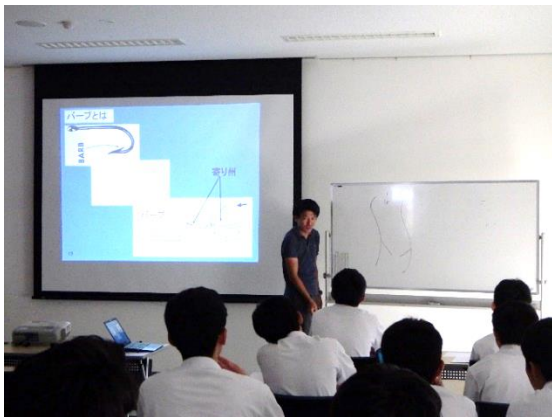
多治見高生による効果検証を含めた水辺の小さな自然再生 ～土木研究所自然共生研究センターでの実習2～

9月6日(金)に7月26日(金)に自然共生研究センターの実験河川で実施していた“小さな自然再生”の結果を調査しに行ってきました。※7/26の詳細は8/2発行の通信をご覧ください(https://school.gifu-net.ed.jp/tajimi-hs/26_furusato/O726kyousei.pdf)。

実験河川に石を積んでから、1か月が経ちました。この日を待ち望んでいた生徒も多く、ドキドキした気持ちで自然共生センターへと向かいました。到着後、研究員の森さん(共生研究センター)から現在の実験河川の様子や解説と、事業としての河川工事の講義を受けました。生徒たちの石の積み方は、河川工事ではあまり実施されない積み方であるということで一層結果が楽しみになりました。実験河川の様子は、1か月前に比べると明らかに魚数は多く、増えていると感じました。水深・流速の測定を行った後、生物調査を実施しました。どの班も通算4回目の生物調査ということもあり、素早く正確に同定作業を行うことができました。午後からは、隣接する岐阜県の水産研究センターを見学させていただきました。この施設は岐阜県を代表する川魚のアユの研究やイタセンパラという絶滅危惧Ⅰ類に指定されている魚の保護・繁殖などに取り組んでいる施設です。

今後は、学校へ今回の実験データを持ち帰り、石の積み方・水深・流速などの条件と魚種・魚数の関係について分析し、考察を行います。また、その結果を9月28日(土)に金沢大学で実施される日本陸水学会高校生ポスター発表部門で発表する予定です。実験して終わりではなく、外部機関への発表も積極的に行う予定です。そして、国土交通省や岐阜県、多治見市と連携して私たちが暮らす多治見市内を流れる河川で小さな自然再生の実施をしていきたいと考えています。

ご多忙の中、多大なるご支援ご指導をいただきました土木研究所自然共生研究センターの皆さま、本校生徒を迎え入れてくださいました岐阜県水産研究所の皆さま、誠にありがとうございました。



石の積み方についての講義の様子(森さん)



網を張り、魚の逃げ道を塞ぎます
草も生え、時間が過ぎたことを感じます



魚を追い込み、捕獲します



ウナギも棲みついていた

～生徒感想～

・今回生物調査を行ってみて、石を入れていない時よりも多くの種類の生物を捕ることができた。石の置き方によって集まる魚が違うなあと感じた。石を置いたら魚が増えることが分かったので実際に土岐川で試してみたい。

・大きささまざまな石を置いて、一か月放置をした結果、今回は前回見られなかった魚も含め、多くの魚を捕れたので良かった。石の隙間にいたので、魚は狭いところが好きだと思った。前回よりも数・種類ともに多かったので土岐川でも増えたらいいと思った。

・今回は前回石を積んだことで、どのような変化が出たかを確認した。前は流速はどこを計ってもほぼ等しく変化はなかったが、石を積むことで流速の強弱を付けたり、地形が変わることで多種類の魚種を確認することができた。人の力でここまで変えることができるのだと実感した。水産研究所などの研究によって希少魚を保護できることが分かった。このことから人の手によって生物の多様性は保護できるのではないかと考えた。

・魚の特徴や見分け方を直接学ぶことができて良かった。流速・水深を目測で判断するのは難しかった。石を積んだところに植物を置いたが、そこから植物が成長し、生えてきていることに驚いた。

担当教員：佐賀達矢 杉本真弥 下総郁子